

日々いきいきと

教育目標



明るい子
強い子
考える子

入間市立豊岡小学校
令和4年度 14号

入間市向陽台1-1-14番地

TEL 04-2964-5286

令和4年7月15日

児童数 383名

思いやりのある子を育てる

学校長 村越 新

3年生が道徳で「親切、思いやり」について学習しました。3年生のねらいは「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」です。学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」には、次のように書かれています。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

授業で扱った教材では、主人公が大雨災害にあった村の子に、自分が一番気に入っている本を、悩んだ末にあげることにします。その理由について、3年生の子は以下のように考えました。

- 「村の子が困っているから」 「お気に入りをあげれば、相手も喜ぶと思ったから」
- 「もらった人が悲しまないように」 「村の子を喜ばせたいから」
- 「困っている人を助けたいから」 「かわいそうだから、いい物をあげたい」
- 「ちゃんと生活できない人に、喜んでもらいたいから」 など

主人公が相手のことを考え、親切な行為を進んで行った態度に、3年生は共感していたのです。「相手の気持ちを考えて行動すること」「困っている人の気持ちを考えること」の大切を学んでくれたと感じました。

以前お話ししたことがあります。車の中での親の言葉が子供の人生に大きく影響するという話を読んだことがあります。事故で渋滞中の車内。親の「何やってんだ!」「何でこんな時に事故なんか起こすんだ!」という怒りを聞かされる子と、「心配ね」「命に別状がなければいいけど」という暖かい言葉を聞く子。人格形成に大きな差が出るというのです。

私たち大人は子供たちに、相手のことを思いやる姿を見せていきたいものです。



「20-20-20」ルール

(目を大切にしましょう)

「20-20-20」ルールとは、パソコンなどの画面の見過ぎによる眼精疲労の予防方法です。3つの「20」とは、

- ① デバイスの画面を「20分」見るごとに
- ② 「20秒」以上
- ③ 「20フィート（約6m）」以上離れた場所や景色を見る ことです。

アメリカ検眼協会を中心に作成されたルールですが、厚生労働省の目の対策においても、こまめな休憩や1回10～15分程度の休みが推奨されています。

なお、画面が小さい**スマホやゲーム機**を見続ける場合は、パソコンやタブレットよりも目への負担が大きいため、20分よりも早く小休止を挟むことが望ましいそうです。



ヘルメットの着用を

(命を大切にしましょう)

自転車乗用中の交通事故で亡くなられた方は、約6割が頭部に致命傷を負っています。(警視庁HPより)。

また、自転車乗用中の交通事故においてヘルメットを着用していなかった方の致死率は、着用していた方に比べて平成29年から令和3年までの5年間の合計で約2.2倍高なっています。

交通事故の被害を軽減するためには、頭部を守ることがとても重要です。スポーツの時だけでなく、買物や通勤・通学等、日常生活で自転車に乗るときもヘルメットを着用して、頭部を保護しましょう。



※道路交通法上、幼児・児童の保護者の方は、子供にヘルメットをかぶらせるよう努める義務があります。保護者の方もヘルメットを着用し、子供に交通ルール遵守の手本を示しましょう。